

「ヤコブとヨハネ」

2021年11月24日

二人は言った。「栄光をお受けになるとき、私どもの一人を先生の右に、一人を左に座らせてください。」(マルコ福音書 10章 37節)

イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「女よ、見なさい。あなたの子です」と言われた。それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」その時から、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。(ヨハネ福音書 19章 26節～27節)

ゼベダイ家のヤコブ、ヨハネ兄弟は、主イエスから召し出された時、父ゼベダイを雇い人たちと一緒に舟に残して従っている。彼らは雇い人のいる網元のような大手の漁師であった。それは、彼らを強気の性格に育てていた。主イエスの弟子になって宣教生活をする中で、主イエスの言動を慕い多くの群衆が押し寄せるとを体験した。そのような主イエスの弟子であることが、兄弟の喜び、誇りであった。ヨハネは、主イエスの名を使って悪霊を追い出している者を見た。彼は、「私たちと一緒に従って来ないので、やめさせました」と、得意げに進言している。主イエスは、「やめさせてはならない。あなたがたに逆らわない者は、あなたがたの味方なのである」とたしなめている。彼は、一緒に行動しない者を排除する偏狭な性格であった。サマリヤ人の村に入った時、群衆が主イエスをいつものように歓迎しなかったので、ヤコブとヨハネ兄弟は、「主よ、お望みなら、天から火を下し、彼らを焼き滅ぼすように言いませんか」と、歓迎しない人々を焼き殺そうと怒っている。主イエスは二人をお叱りになられた。彼らの言葉は、主イエスの弟子であることを誇りにする喜びから出たものであるが、「ボアネルゲス(雷の子)」と名付けられた通り、気に入らないとすぐに怒り出す度量の狭い人間であることを表している。

また、彼らは野心家であった。主イエスが毅然としてエルサレムに上る姿を見て、いよいよ革命を起こし、主イエスは王になられると思った。その時、「栄光をお受けになるとき、私どもの一人を先生の右に、一人を左に座らせてください」と申し出ている。弟子たちを見渡し、主イエスが王になる時は、自分たち兄弟が左右の高い地位を得るのが当然と考えたからである。他の弟子たちは、自分たちを出し抜いて、頼み事をしているのを知って腹を立てた。主イエスは、十字架の死に向かう苦難を理解せず、この世の高い地位を望む弟子たちに、どれほど悲しく思ったであろうか。そこで、偉くなりたい者は仕える者に、頭になりたい者は僕になりなさいと諭されている。

ところがヨハネは、主イエスの身近にいて愛され、教えの核心は「愛」であることを悟っていった。主イエスが十字架にかけられた時、弟子たちは皆、逃げ去っていたが、十字架の下に、母マリアと「愛する弟子」が立っていた。愛する弟子はヨハネを指している。主イエスは母に、「女よ、見なさい。あなたの子です」と言われ、ヨハネには「見なさい。あなたの母です」と、歎き悲しむ母をヨハネに託している。主イエスには弟たちがいたのに、母を弟子ヨハネに預け、彼はその時から、マリアを自分の家に引き取った。雷の子のヨハネが愛の人に変貌していた。母を託した主イエスの母への配慮が記されている。兄ヤコブは初代教会において、領主ヘロデに惨殺され、最初の殉教者としての栄誉ある死を遂げた。一方、ヨハネは高齢になるまで生き延び、「愛」を語る宣教者になったと伝えられている。ヤコブ、ヨハネは味方でない者を排除し、怒ることの早い兄弟であったが、主イエスに信従する中で変えられ、命を賭して、福音宣教に献げる生涯を全うしたのである。